

おうとう

佐藤 彦 展 開 始 満 開 落 花 収 穫 盛
 3.30 4.25 4.24 4.29 5.12 6.22
園芸試験場平年値

散布時期	適用病害虫名	散布薬剤名及び散布濃度 (薬液100ℓ当たり)		農業使用基準		10a当たり 散布量	注意事項 (収穫前日数 総使用回数)を表す	散布日 (月/日)	使用薬剤	使用 濃度
				収穫前 使用時期	総使用 回数					
休眠期 (3月末迄)	ハダニ重点防除 カイガラムシ類幼虫 ハダニ類 カイガラムシ類	水 1. ハーベストオイル 2. アブロードフロアブル 又は、 石灰硫黄合剤	(98ℓ) (石灰硫黄合剤を併用する場合) 50倍(2ℓ) 1,000倍(100cc) 10倍(10ℓ)	発芽前 7日前まで	- 2回以内	400ℓ	1. 天気のよい温暖な日を選び薬剤をむらのないように散布するとともに、薬液のかけやすい樹形に整理する。(手散布による補助散布)	/		
4月下旬 開花1日前 (風船状)	灰星病 幼果菌核病 炭そ病 ハマキムシ類	1. トレノックスフロアブル 2. バイオマックスDF	500倍(200cc) 2,000倍(50g)	21日前まで 前日まで	5回以内 -	400ℓ	1. この回以降、殺虫剤解禁までは訪花昆虫の影響を少なくするため早朝散布に努め、果群に直接薬液がかからないようにする。	/		
状況五分咲	星病 幼果菌核病 せん孔病 灰星病	1. トップジンM水和剤	1,500倍(66.6g)	14日前まで	3回以内	600ℓ	1. 山手や開花期不順天候時に散布する。 2. 展着剤は加用しない。	/		
5月上旬 満開期 (八分咲)	重病 灰星病 幼果菌核病 褐色せん孔病 ハマキムシ類	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 2. バイオマックスDF	3,000倍(33.3g) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 -	600ℓ	1. 訪花昆虫の影響を少なくするため早朝散布に努め、果群に直接薬液がかからないようにする。	/		
5月中旬 (満開10日後)	点防 灰星病 炭そ病 褐色せん孔病 (コアオカシミカメ)	1. スミレックス水和剤 2. オーンサイド水和剤80	1,500倍(66.6g) 800倍(125g)	14日前まで 3日前まで	3回以内 5回以内	600ℓ	1. 花ぐされや発病果は伝染源になるので、見つけ次第摘みとり埋設する。 2. コアオカシミカメによる被害が心配される場合、ウララDF2,000倍(前日まで、2回以内)を加用する。ただし訪花昆虫回収後とする。	/		
状況5月中～ 下旬	除 コスカシバ	スカシバコンL	10a当たり40～100本を設置	広域的に設置する			1. コスカシバの発生が多い園では設置する。	/		
この回以降の散布は殺虫剤解禁後とする										
状況 殺虫剤解禁後	ウメシロカイガラムシ重点防除 ショウジョウバエ類 オウトウハマダラミバエ	1. アグロスリン水和剤 ^{※1}	1,000倍(100g)	収穫3日前	2回以内	600ℓ	1. カメムシにも効果があるので被害が心配される園では散布する。	/		
5月下旬	ウメシロカイガラムシ重点防除 灰星病 カイガラムシ類 カメムシ類 ハダニ類	1. スコア顆粒水和剤 2. スブラサイド水和剤 3. ダニコングフロアブル	2,000倍(50g) 2,000倍(50g) 2,000倍(50cc)	前日まで 7日前まで 前日まで	3回以内 3回以内 1回	600ℓ	1. スブラサイド水和剤は、収穫7日前までなので、早生種の収穫は農業散布後の日数に注意し、曇天時や高温時の散布、樹勢の衰弱した樹では薬害が出やすいので注意する。又、『紅きらり』に薬害の発生するおそれがあるので散布しない。 2. この回以降収穫前は展着剤を加用しない。 3. 雨よけ被覆後はハダニが多くなりやすいので、草刈り3～4日後にいいに散布する。 4. カイガラムシに効果が高いので、発生の多発している所では散布ムラのない様にする。	/		
6月上旬	灰星病 カメムシ類 オウトウショウジョウバエ	1. バレード15フロアブル 2. スタークル顆粒水溶剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	2回以内 2回以内	500ℓ		/		
6月中旬	灰星病 炭そ病 黒斑病 褐色せん孔病 オウトウショウジョウバエ	1. ナリアWDG 2. エクシレルSE	2,000倍(50g) 2,500倍(40cc)	前日まで 前日まで	3回以内 3回以内	500ℓ	1. ナリアWDGはレクチエの果実や、ピオーネの葉に薬害を生ずることがあるので飛散させない。 2. 収穫の終わった早生品種にも散布すること。	/		
6月下旬	灰星病・黒斑病 オウトウショウジョウバエ	1. オンリーワンフロアブル 2. ダントツ水溶剤	2,000倍(50cc) 2,000倍(50g)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1. 病害果被害果は見つけ次第摘みとり埋設する。	/		
晩生種中心 7月上旬	灰星病・黒斑病 炭そ病 褐色せん孔病 ショウジョウバエ類	1. ナリアWDG 2. テルスターフロアブル ^{※1}	2,000倍(50g) 3,000倍(33.3cc)	前日まで 前日まで	3回以内 2回以内	500ℓ	1. この回以降、収穫が終わらない場合、オウトウショウジョウバエ対策として、ディアナWDG1万倍(前日まで、2回以内)を散布する。	/		
収穫直後	セン孔病 ハマキムシ類 ウメシロカイガラムシ アメリカシロヒトリ ハダニ類	1. オキシラン水和剤 2. ダイアジノン水和剤34 3. カネマイトフロアブル	600倍(166.6g) 1,000倍(100g) 1,000倍(100cc)	収穫後～落葉まで 14日前まで 7日前まで	3回以内 2回以内 1回	600ℓ	1. 収穫の終わっていないおうとう、ももに飛散させない。	/		
状況7月中～下旬	セン孔病	1. オキシラン水和剤	600倍(166.6g)	収穫後～落葉まで	3回以内		1. 降雨が続くまたは、散布間隔が空きすぎる場合は散布する。	/		
8月上 ～中旬	ウメシロカイガラムシ重点防除 セン孔病 カイガラムシ類幼虫 (ハダニ類) もも摘取園 セン孔病 灰星病 ウメシロカイガラムシ	1. オキシラン水和剤 2. アブロードフロアブル 1. トップジンM水和剤 2. ダイアジノン水和剤34	600倍(166.6g) 1,000倍(100cc) 1,500倍(66.6g) 1,000倍(100g)	収穫後～落葉まで 7日前まで 14日前まで 14日前まで	3回以内 2回以内 3回以内 2回以内	600ℓ	1. 他作目に飛散させない。 2. アブロードフロアブルの代わりにスブラサイド水和剤1,500倍(収穫7日前まで、3回以内)を使用しても良い。ふ化幼虫時に的確に散布するとともに散布ムラが出ないように注意する。 3. ハダニ類が見られる場合はコロマイト乳剤1,000倍(7日前まで、1回)を加用散布する。コロマイト水和剤はおうとう、ももに登録がない。	/		
状況9月上～中旬	セン孔病	1. Zボルドー 2. クレフノン	500倍(200g) 100倍(1kg)	- -	- -	600ℓ	1. 天候不順時に散布する。 2. Zボルドーには薬害防止のため必ずクレフノン100倍を加用する。 3. 他樹種への飛散に注意する。	/		
状況9月中旬 ～10月中旬	除 コスカシバ	1. トラサイドA乳剤	200倍(500cc)	収穫後～ 萌芽前	1回	400ℓ	1. コスカシバの発生が多い園では、秋期にトラサイドA200倍(収穫後～萌芽前、1回)又は、落葉後ラビキラー乳剤200倍(落葉後～萌芽前、1回)どちらかを樹幹及び主枝にかかる様、ていねいに散布する。 2. おうとうの野その食害忌避としてフジワン粒剤200g/樹(根雪前、2回以内)を使用してもよい。	/		
落葉後	越冬病害(樹脂細菌病など)を防ぐために石灰硫黄合剤10倍液又はICボルドー66D40倍を散布する。							/		

収穫前使用時期で「前日」とは24時間前である。
 オーンサイド水和剤80、オキシラン水和剤などキャプタンを含む剤の総使用回数は合計で5回以内である。
 オキシラン水和剤など有機銅を含む農薬の総使用回数は合計で3回以内である。
 ※1 合成ピレスロイド剤は蚕毒・魚毒が強いので、桑園・養魚池、河川などの近くでは絶対に使用しない。